

## 二次性徴の最近の特徴

国立成育医療研究センター内分泌代謝科医長

堀川 玲子

(聞き手 山内俊一)

最近、7～8歳の女児の乳房のしこり（乳頭部中心）が心配で受診されることが多いように思います。二次性徴前の現象とは思いますが、最近は年齢に差が出てきているように思います。全国的にはどうでしょうか。最近の小児の発達過程で昔と違ってきている点があればご教示ください。乳房のしこりに対する診断のポイント、経過観察のポイントもご教示ください。

<山口県勤務医>

**山内** 堀川先生、まず、広い意味で二次性徴ということですが、昔に比べると二次性徴が早くなったということがよくいわれますが、このあたり、実態はいかがでしょうか。

**堀川** 戦後、栄養状態が改善してきて、日本人の身長も体重も増えてきまして、それに伴って二次性徴が少しずつ早くなってきたというデータはありますけれども、ここ10年、20年は二次性徴の開始時期についてはほぼ頭打ちになっていると考えられています。

**山内** 現時点ではそんなに進んでいるわけでもないのですね。

**堀川** そうですね。それぞれの人種で少しずつ二次性徴の開始時期は異な

りますけれども、だいたい栄養状態が一定してくると、どの人種でもある程度まで早くなって、そこで定常状態になるというか、そういうことが見られるようです。

**山内** 原因は、今先生がおっしゃいました栄養状態がよくなるということだと思います。片付けられているのでしょうか。

**堀川** 実際に例えば肥満のお子さんは二次性徴が早いということもあります。また、二次性徴の開始のシグナルの一つがレプチンという脂肪細胞から出てくるホルモンだということも報告されていますので、栄養と二次性徴の開始が関連しているというのは確かだ

と思います。

**山内** 性ホルモンの関与も出てくると思われませんが、これの変化に関するデータ、経時的、経年的な変化ですが、こういったものに関しては何かあるのでしょうか。

**堀川** なかなかホルモン自体を測った大規模な調査というのはなくて、日本でもそういうものはないのですけれども、例えば米国ですと、女兒の乳房腫大とか初経年齢、それから男児の外陰部の発育の開始年齢というのはけっこう大規模に調べられていまして、それから推し測ってホルモンの分泌も早くなっているだろうというふうに考えられています。

**山内** さて、質問の最初に戻りますが、乳房のしこり、7～8歳ですが、これは比較的多い現象なのでしょうか。

**堀川** そのぐらいの年齢の女の子さんで乳房のところがちょっとしこりが触れるというふうにして外来にいらっしゃる方は比較的多いと思います。だいたい日本人の女兒の乳房腫大の開始年齢は、平均が9歳3～6カ月ぐらいと考えられています。その年齢±2歳は標準範囲内と考えていますので、7歳半以降でしたら標準範囲内の乳房腫大の始まりと考えていいかと思えます。それで7歳半のところで思春期早発症といわゆる早生のお子さんとを線引きしていることになります。

**山内** 二次性徴に関しましては、気

になるものとならないものに分かれて、線引きにもいろいろなものがあると思われませんが、非常に気になるものといえぼどのようなものがあるのでしょうか。

**堀川** 乳房の腫大とプラスしまして、いわゆる二次性徴のときに見られる身長急激な増加、成長スパートといえますけれども、それですとか、それから手のX線画像を撮ったときに骨年齢というものを見ることができます。それが非常に進んでいたりとか、あるいはほかの二次性徴の徴候、陰毛が生えたり、性器出血があったり、そういったものが非常に急速に進んでくるという場合には治療が必要なこともあります。

**山内** 今度は逆に少し遅いなどというケース、こういった場合、対応はどうしたらよいのでしょうか。

**堀川** 遅い場合は、多くの場合は家族性で、お父様が高校生になってから背が伸びたとか、お母様の初経年齢が14歳、15歳と遅かったとか、そういったことが多く見られます。だいたいの場合は経過を見ていけばいいということになるかと思えます。

**山内** 今のお話は女兒ですね。女のお子さんに対して、父親の遺伝的、体質的なことも影響すると考えてよいわけですか。

**堀川** はい、そうだと思います。男児の場合も同じで、母親が二次性徴が

ゆっくりだったので、男のお子さんもゆっくりということもあります。

**山内** さて、乳房のしこりに戻りますが、先ほどしこりは実際には多いということでしたが、しこりの臨床的な特徴といったものはどんなものなのでしょう。

**堀川** 乳頭下、乳輪の下にしこりが触れる。それが周りに浸潤したような形ではなくて、固くまとまっていて、触れるとけっこう痛いということがあります。その場合は乳房の腫大の始まりであることがほとんどだと思います。痛みがあるから、逆に心配されて、何か悪いものではないかといって来られる場合もあるのですけれども、悪性腫瘍の頻度は非常に低いと思います。

**山内** 痛みは単独の結節のことが多いのでしょうか。それとも、多発といいますか、たくさんあることが多いのでしょうか。

**堀川** 痛みがあるのが正常の乳腺の組織なので、1つだけ触れるということです。

**山内** 例えば、両側が痛いとか、片側が痛いとか、そういったあたりはいかがでしょうか。

**堀川** これもおもしろいところなのですけれども、乳房は必ずしも両方が一度に大きくなっていくわけではなくて、しこりが片方だけ出ていたり、片方出て、次に反対側が出て、そのときには片側が消えてしまったりというよ

うな助走期間のあるお子さんもいるのです。そういうふうにしながらだんだん大きくなっていくこともよく見られますので、どちらか片方だけでも心配されることはないかと思います。

**山内** 初期ですと、左と右とで左右差があるといえますか、乳房自体のサイズに差があるということもあるのですか。

**堀川** ありうると思います。もちろん、両方一緒に同じように大きくなっていくお子さんもいらっしゃいますけれども、けっこう差があることも見られます。

**山内** いずれにしても、がんは極めてまれと見てよいわけですね。

**堀川** はい。それでいいかと思いません。

**山内** あまり検査はやらないのでしょうか。

**堀川** 触診をして、だいたい二次性徴の始まりということがわかれば、それ以上の検査は何もしないで、経過を見るだけでいいかと思います。念のために骨の年齢を調べたりすることもありますけれども、あとホルモンの測定をするのは、よほど年齢が小さいとか、進行が急激だとか、何か気になる所見があったときでいいのではないかと思います。

**山内** 成人に行われるマンモグラフィとか、そういったものはほぼないと。

**堀川** マンモグラフィをするのは無

理だと思います。やるとしたら超音波の検査なのですが、よほど大きな左右差があるとか、例えば血清の分泌物があるとか、そういう場合はもちろん精査が必要になってくるかと思いますが、そういった症例には会ったことがありませんので、本当にまれだと思います。

**山内** 少なくとも慣れた先生が見たらすぐわかるというか、視診、触診ですぐわかるというレベルと考えてよいわけですね。

**堀川** はい。逆に、それほど検査が必要ないのだということをお話しして安心させてあげるということも大切かと思えます。

**山内** ちなみに、これは男児にも起こりうるものなのでしょうか。

**堀川** 男の子も、多かれ少なかれ思春期の始まりに乳房が出てきます。それは男児でも思春期になると女性ホルモンがつくられるのです。男性ホルモンから女性ホルモンがつくられますので、その女性ホルモンが作用して乳房が多少大きくなります。

**山内** この作用は自然に治っていくといいますか、普通に是正されていくと考えてよいわけですね。

**堀川** はい。中には女性化乳房といって大きくなるお子さんもいらっしゃるのですが、それも思春期中期を越えると小さくなってきます。ただ、非常に気にされる男のお子さんの場合には治療をすることがあります。

**山内** ありがとうございます。